

海外市場開拓セミナー 実践講座 <7>

■テーマ■ 「展示会を有効に活用する出展ノウハウと注意点」

- 1) 出展の事前準備 出展ツール 3-1-0.3 の法則
- 2) 原則として「お礼状」禁止、「名刺集め」禁止、「ノベルティ配布」禁止
- 3) 「商談記録シート」の作り方、アンケート項目の設定方法



■講座/セミナーの狙い

- ・来場者がブースの前で足を止める時間はおよそ 20 秒、製品パネルを見る時間は 1 分（限られた時間での PR 方法を解説）
- ・足を止めた来場者をブースに誘導する方法、効果的なブース内出展レイアウトと出展製品の並べ方
- ・商談の持ち込み方、来場者のチェックポイント項目、会期後のフォローアップ（収集したデータの仕分け/フォローアップの優先順位）

■主な対象者（ぜひご参加いただきたい方々）

- ・海外で開催される展示会の視察や出展を計画している企業、または展示会出展に向けて実際に準備に取り組んでいる企業
- ・これまで自社で取り組んできた出展経験を見直し、問題点や今後の課題を整理したい展示会出展の責任者及び実務担当者
- ・海外視察や展示会出展などを企画または支援している団体及び関係機関、出展企業の取りまとめ役を行っている業界団体など

■この講座/セミナーで伝えたいポイント

- ・出展製品の準備、ポスターやリーフレットの作り方、製品説明の仕方、来場者の対応方法など事前準備の進め方を解説
- ・「商談」から「成約」へどう結びつけるか、展示会を単なるイベントに終わらせないコツ、費用対効果に見合う出展の結果を目指す
- ・現地通訳を有効活用して効果的にフォローアップを行う方法、展示会では会期後のスピーディなフォローアップが勝負

<内 容>

■7 ■展示会を有効に活用する出展ノウハウと注意点	各セッションで取り上げるポイント/理解項目
1) 出展の事前準備 レイアウト/掲示物/配布物 1-1 原則「お礼状」禁止、ブースにて禁止事項×3 1-2 ブースレイアウトの3つの基本パターン 1-3 3-1-0.3 基準で掲示物を作成、ポスター/パネル/POP 1-4 出展製品の並べ方、効果的なディスプレイ方法	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者をブース内に誘導し、効果的に「商談」を始めるためのノウハウ ・製品説明パネルを読む時間はおよそ 1 分、限られた時間で効果的に製品 PR ・ブース滞在時間はおよそ 3 分、説明は 1 分間で、ブースでは説明 ≤ 質問受付 ・会場の動線を読む、効果的なキャッチ用ポスター/パネル/撒きビラの作り方 ・製品レイアウト、壁の有効活用方法、小間内の装飾、来場者の視線を考える
2) 成功事例に見る展示会出展のノウハウを徹底分析 2-1 写真で見る出展レイアウト、製品出展/ブース活用事例 2-2 来場者を仕分け/見極め、「商談記録シート」の作り方 2-3 ブース通訳を使いこなすノウハウと注意点 2-4 会期中にぜひ実施したい3つのアクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・現場写真で見る効果的なブースレイアウトと製品展示、良い事例/悪い事例 ・来場者への対応方法/声をかけるタイミング、20 秒で相手のホンキ度チェック ・来場者アンケートの設定内容チェック、ノベルティ予算の効果的な別利用方法 ・通訳の探し方、通訳との事前準備、帰国後に通訳をうまく使う方法 ・滞在中の夕食の回数、会期中のブース回り、情報キャッチボールの人探し
3) 会期後の活動が成果を大きく左右する 3-1 集めた名刺を仕分けする/可能性チェック 3-2 現地通訳を徹底的に活用する 3-3 1か月後に再出張を、3か月後にプロジェクトの総括を 3-4 情報発信体制を作る、定期的なニュース配信を	<ul style="list-style-type: none"> ・「お礼状」禁止、ノベルティ配布禁止、アンケート禁止、まずやるべきことは？ ・来場者の名刺を「商談」につなぐ有効な方法（「商談記録シート」を使いこなす） ・最小予算で最大効果をあげるフォローの事例、名刺を仕分け/可能性を分類 ・会期後に通訳を継続して活用する、通訳をテンポラリーな現地戦力と考える ・英語版/中国語版ホームページを簡単に作るコツ、3つの情報発信体制作り

◆海外の展示会に出展するために必要な準備や事前のチェックポイントを学びます。◆実習として「商談記録シートの作成」、作り方と使いこなし方を解説します。◆海外の展示会への計画している企業向けの講座です。◆事前準備で優先的にやるべきこと、またスタッフ全体で共有すべき注意点を重点的に解説します。◆さらに通訳の探し方、有効な活用法、成約に繋ぐための通訳の使いこなし方などを解説します。◆現場での経験をもとにして実践的なノウハウや現場での注意点をワークショップ方式で学ぶための講座です。◆会社単位での受講も可能です。または自治体が企画するセミナーでワークショップを実施することも可能です。

